

2015年(平成27年)

5/28(木)

Thursday

きょうの

発言

今日10日、熊本日日新聞社と熊本放送主催の「くまもと戦争遺産をめぐる旅」でガイド役を務めさせてもらいました。

戦後70年の今年、郷土熊本に残る戦跡に当時の証言や戦後復興等を重ね、「戦争遺産」として未来に伝えていこうという趣旨の旅です。6月まで三つのコースに分けて実施されます。いずれも募集から数日で定員に達したと聞いています。

高谷 和生 くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク事務局長

戦争遺産をめぐる旅

1回目となるこの日の見学コースは「軍都熊本と菊池飛行場跡」。熊本学園大学に残る歩兵第13連隊の食堂跡は、卓球部などの練習場として利用されています。大正末期に造られたRC建造物の全国でも珍しい施設で、軍都を象徴する熊本市大江地区に唯一残る軍の建物です。1945年5月13日の空襲で庄長・看護学生ら6人が亡くなった熊本再春荘病院(当時、傷痍軍人療養所)の留魂碑は訪れる人もなく、病院の一角に静かにたたずんでいます。昨年、地区が解体を決めた旧

通信省熊本航空機乗員養成所(後に黒石原飛行場)の奉安殿は至るところに落書きがあり、痛々しさを感じました。参加者の中に当時を知る方もおられ、特攻にかかわった証言に胸を打たれました。空襲時の弾痕が残る菊池飛行場の給水塔はモルタルがはがれ落ち、市指定文化財としての建物保存が急務です。これらの近代遺跡は、戦争遺産として将来に伝えることができるのでしょうか。戦後70年。参加者の思いをくみ取り、戦跡保存団体としての責任の重さを感じた1日となりました。

2015.5.28